

国士館OB民族派団体会議決起集会 ついに立ち上がった国士の精鋭

「当紙社主がいそがしにして母校の不正記事『国士の鐘を揺るがす』を書いたのが一丁度一年前の八月だった。あれから一年、どのように変わったかを検証する。」

文部科学省から来た杉山常務理事の部下であった時本は崩壊して桐蔭大学へ転勤。追いかけるように昨年八月付で退職した杉山常務も同じく桐蔭大学へ転勤したらしい。桐蔭がまた一人に食い物にされることだろう。

早稲田大学元総長で国士館の元理事長だった西原春夫氏も昨年この時期は名譽顧問という肩書きで、大学側が年間一億近い経費を支払っていたというが、以後抗議が殺到し、名譽顧問を降りたという。国士館を裏切る耳ついているといわれた余所者四人組といわれた中で残っているのは法政大学出身の佐伯弘治理事長一人になった。

佐伯理事長も昨年同月頃は大林組と裏切りベート疑惑の責任を取って辞めるのではないかと噂も出ていたのだが、いつの間にかやらぬに紛れて消えてしまった。佐伯理事長は国士館に来る前、流通経済大の理事長だったらしいが、面白い話が職責から出ていた。流通経済大に国士館から毎月五〇〇万円支払われている、というのである。国士館と流通大と

は何の縁もない筈である。何の支払いだらうか。

とにかく教職員も知らない事が多過ぎるのである。国士館大学の不幸府の会というのが出した佐伯理事長への公開質問状の中にも書いてあったが、理事長以外の理事は多い人で月に数回の出勤状況であり、理事の大半は年間を通じて理事会以外は大学に姿を現さない状況にも拘らず、年間一人あたり一〇〇〇〜一五〇〇万円が支給されているという。

大学経営や大学教育に殆ど書き写していない理事に対しては給与を考慮すべきではないのか。西原氏は我々の指摘を聞き入れたのか、年間一億円の無駄金を辞退されたよなもので深追いはせぬが、明正高潔跡地の不正疑惑については教職員始め多くのOB、関係者が真相を知りたがっている。

この校舎建設、その前の解体について理事会に諮らず、一部の理事、評議員だけで業者(大林組)を選定を行い、また解体工事には業者からOB対策費(オナーメント)というらしい(これはOB対策費という位だから煩いOBを黙らせてくれ、という金か)。ところが煩いOB関係者に尋ねてみると誰もこの件で金貰った者はいないのだ。ということでは学内の関係者の誰かがネコババしている可能性大なのだ。それを調べてくれ、って言うってんだ

よ佐伯理事長。いや当紙に内緒で貰ったOBがいるかも知らん。この際OBも含めて目黒つけよってんで煩そうなOBの団体に声を掛けた次第です。

皆さん、気持ちよく賛同して下さいまして、この際、誠意、勤勉、見識、気魄を持参をき輩は聞き渡すべし、と意見の一致をみました。一部の噂には、今回の件で参加者の中にも利益を得た者がいるという話も出ていたがそれも含めて調べて下さい、と当紙からの提案です。不正は不正として処罰が必要でしょう。

八月四日、夏休みで学生がいない時を見計って結成式を行う事にした。先ずは松陰神社に集まり、御破いを受け、結団の誓いを創立者柴田徳次郎先生の墓前で行いたいという考えから、学内にある墓前に行く必要があったから、学生のない夏休みを選んだのである。戦いが始まれば校長は言いつられないが、出来る事なら関係のない人達を捲き込まないように努力すべきである。それが我々の礼儀である。

早速一番ハッターとして国士會本部(鈴木和之)が八月十日に佐伯理事長に対して、不正疑惑真相究明の抗議街宣を行った。今後、徹底的な糾弾が始まる。



虎の威を借りた下請けいじめが得意